



## 安全データシート (SDS)

### 1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社  
 東京都中央区日本橋本町4-3-8  
 担当  
 TEL(03)3270-2701  
 FAX(03)3270-2720  
 緊急連絡 同上  
 改訂日 2022/09/12  
 SDS整理番号 06043250

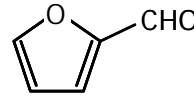
製品等のコード : 0604-3250

製品等の名称 : フルフラール

推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)  
 溶剤、合成樹脂(フラン樹脂)、テトラヒドロフラン原料、ナイロン原料、  
 浮遊選鉱剤、石油精製、医薬品、香料など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

物理化学的危険性	
引火性液体	: 区分3
自然発火性液体	: 区分に該当しない
金属腐食性化学品	: 区分に該当しない
健康に対する有害性	
急性毒性(経口)	: 区分3
急性毒性(経皮)	: 区分3
急性毒性(吸入:蒸気)	: 区分2
皮膚刺激性/刺激性	: 区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 区分2A
発がん性	: 区分2
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 区分1(呼吸器、肝臓)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 区分1(呼吸器)、 区分2(肝臓)
環境に対する有害性	
水生環境有害性 短期(急性)	: 区分3
水生環境有害性 長期(慢性)	: 区分3

注意喚起語 : 危険

#### 危険有害性情報

引火性液体及び蒸気  
 飲み込むと有毒(経口)  
 皮膚に接触すると有毒(経皮)  
 吸入すると生命に危険(蒸気)  
 皮膚刺激  
 強い眼刺激  
 発がんのおそれの疑い  
 呼吸器、肝臓の障害  
 長期又は反復ばく露による呼吸器の障害

長期又は反復ばく露による肝臓の障害おそれ  
水生生物に有害  
長期的影響により水生生物に有害

## 注意書き

## 【安全対策】

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。  
容器を密閉しておくこと。  
容器を接地すること、アースをとること。  
防爆型の電気機器、換気装置、照明機器などを使用すること。  
火花を発生させない工具を使用すること。  
静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
ミスト、蒸気などを吸入しないこと。  
取扱い後は、よく手を洗うこと。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。  
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面、呼吸用保護具を着用すること。  
環境への放出を避けること。

## 【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。直ちに医師に連絡すること。  
吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し呼吸しやすい姿勢で休息させる。直ちに医師に連絡する。  
皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。  
皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。  
眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。  
気分が悪い時は医師に連絡すること。  
皮膚刺激が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。  
眼の刺激が続く場合：医師の診察、手当を受けること。  
汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

## 【保管】

日光を避け、容器を密閉し換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

## 【廃棄】

内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名	フルフラール (別名) フラン-2-カルボアルデヒド、2-フルアルデヒド、 2-フランカルボアルデヒド、2-フランカルボキサルデヒド、 2-ホルミルフラン、2-フリルメタナール、 フルフリルアルデヒド、フロール、フルフロール、 フルアルデヒド (英名) Furfural, 2-Furaldehyde, 2-Furylmethanal, Furfurylaldehyde, Furaldehyde, 2-Furaldehyde, 2-Francarbalddehyde (TSCA名称)、2-Formylfuran, Furol, 2-furaldehyde (EC名称)
成分及び含有量	フルフラール、-----
化学式及び構造式	C <sub>5</sub> H <sub>4</sub> O <sub>2</sub> 、構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	96.09
官報公示整理番号	(5)-40
化審法	公表化学物質(化審法番号を準用)
安衛法	
CAS No.	98-01-1
EC No.	202-627-7
危険有害成分	フルフラール

## 4. 応急措置

吸入した場合 : 直ちに医師に連絡する。  
直ちに、被災者を新鮮な空気のある場所に移す。  
被災者を毛布等でおおって体を保温し、呼吸しやすい姿勢で安静にする。  
呼吸していて嘔吐がある時は、頭を横向きにする。  
呼吸が止まっている場合、または呼吸が弱い場合には衣服を緩め、呼吸  
気道を確保した上で人工呼吸(または酸素吸入)を行なう。  
気分が悪い時は、医師の手当を受ける

- 皮膚に付着した場合 : 直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。  
速やかに、皮膚を多量の水と石鹸で洗う。  
皮膚刺激などが生じた時、気分が悪い時は医師の手当を受ける。  
汚染された作業衣は作業場から出さない。  
汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
- 目に入った場合 : 直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗淨すると、かえって目に障害を起こすことがあるので注意する。  
まぶたを親指と人さし指で拵げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗淨する。  
次に、コンタクトレンズを着用して固着していなければ除去し、洗淨を続ける。  
眼の洗淨が遅れたり、不十分の場合は、眼の障害のおそれがある。  
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに医師に連絡する。  
速やかに、口をすすぎ、うがいをする。  
大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。  
意識がない時は、何も与えない。もし、嘔吐が自然に生じた時は、気管への吸入が起きないように、頭を尻より下に身体を傾斜させ、肺への還流を防ぐ。嘔吐後、意識が戻れば、水を飲ませる。体の保温に努め、速やかに医師の診察を受ける。  
気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
- 予想される急性症状及び遅発性症状 :  
吸入した場合 : 咳、頭痛、息苦しさ、息切れ、咽頭痛  
皮膚に付着した場合 : 吸収される可能性あり。発赤、痛み、皮膚乾燥  
眼に入った場合 : 発赤、痛み、かすみ眼  
飲み込んだ場合 : 腹痛、下痢、頭痛、咽頭痛、嘔吐
- 応急措置をする者の保護 : 火気に注意する。  
有機溶剤用の保護マスク、防護手袋、保護メガネがあればそれを着用する。

## 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 本製品は可燃性、引火性であり、燃焼しやすい。  
粉末、二酸化炭素、泡消火剤、水噴霧  
大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
- 使ってはならない消火剤 : 棒状放水(本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがあるため)  
特有の危険有害性 : 引火性が高い。  
燃え易いので、熱、火花、火炎で容易に発火する。  
引火点(60 )以上では蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。  
本製品の蒸気は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがあり、屋内、屋外、下水溝などでの遠距離引火の可能性がある。  
加熱により容器が爆発するおそれがある。  
火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を遮断する。  
火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。  
危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。  
消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。  
火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。  
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。  
皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。  
風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。  
蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。  
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
- 環境に対する注意事項 : 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。  
回収、中和 : 乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理する。  
大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、液面を泡で覆い密閉できる容器などに回収する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 危険でなければ漏れを止める。  
漏洩エリア内で稼働させる設備・機器類は接地する。
- 二次災害の防止策 : 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。

周辺の発火源を速やかに取除く。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱いおよび保管上の注意

### 取扱い

- 技術的対策 : 裸火禁止、火花禁止、禁煙。強力な酸化剤との接触禁止。  
引火点(60 )以上で使用する場合は、工程の密閉化および防爆型換気装置を使用する。  
ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。  
指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行なう。  
指定数量以上を貯蔵する時は、消防法の規定に従った危険物倉庫に保管する。  
指定数量の1/5以上、1未満(少量危険物)を貯蔵する時は、最寄の消防署に届出を行い、消防法規定に従った届出倉庫に保管する。  
指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取り扱いについては届出の必要はない。  
炎、火花または高温体との接触を避ける。  
静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。  
本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
- 局所排気・全体換気 : 防爆仕様の換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。  
蒸気は空気より重く、床に沿って移動することから、床面に沿って換気する。
- 安全取扱い注意事項 : すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。  
屋外又は換気の良い場所でのみ使用する。  
周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。  
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。  
取扱い後はよく手を洗う。
- 接触回避 : 炎、火花または高温体との接触を避ける。
- 保管
- 技術的対策 : 保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。  
保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。  
保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。  
保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
- 保管条件 : 光のばく露や高温を避けて保管する。  
容器を密閉し換気の良い冷暗所に保管する。  
施錠して保管する。  
危険物を貯蔵する所には「火気厳禁」等の表示を行う。  
混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
- 混触危険物質 : 酸化剤、酸、塩基
- 容器包装材料 : ガラスなど。  
アクリル樹脂など多くのプラスチック、ゴムを侵す。

<参考> 室温での容器包装材料の耐薬品性(あくまでも目安、保証不可、実用試験確認必要)

【 :良好 :やや良好(条件による) :やや不良 x:不良 -:データなし 】

スチレンゴム クロロプレンゴム(ネオプレン) ニトリルゴム× プチルゴム  
天然ゴム シリコンゴム× フッ素ゴム(パイトン、ダイエル)× テフロン  
軟鋼 ステンレス(SUS304 SUS316) チタン アルミニウム 銅  
軟質塩ビ× 硬質塩ビ× ポリスチレン× ABS - ポリエチレン× ポリプロピレン×  
ナイロン アセタール樹脂 - アクリル樹脂× ポリカーボネート - ガラス

## 8. ばく露防止及び保護措置

- 管理濃度 : 設定されていない。  
許容濃度(ばく露限界値、生物学的ばく露指標):  
日本産衛学会 2.5ppm 9.8mg/m3(皮膚吸収あり)  
ACGIH TLV-TWA 2ppm(皮膚吸収あり)
- 設備対策 : 防爆の電気・照明機器を使用する。  
作業場には防ばく型の換気装置を設置し局所排気又は全体換気を行なう。  
静電気放電に対する予防措置を講ずる。  
この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。

保護具	
呼吸器の保護具	： 呼吸器保護具（有機ガス用防毒マスク）を着用する。
手の保護具	： 保護手袋（ネオプレン製など）を着用する。
眼の保護具	： 保護眼鏡（普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型）を着用する。
皮膚及び身体の保護具	： 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	： この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態	
性状	： 液体
色	： 無色～暗赤褐色
臭い	： 刺激臭（催涙性）
pH	： データなし
融点	： -37
凝固点	： データなし
沸点	： 162
引火点	： 60（密閉式）
可燃性	： 引火性
爆発範囲	： 下限 2.1vol% 上限 19.3%
蒸気圧	： 0.144kPa（20℃）
相対ガス密度（空気 = 1）	： 3.31
密度又は相対密度	： データなし
比重	： 1.160～1.165（20/20℃）
溶解度	： 水に混和する（8.3g/100mL、20℃）。 アルコール、エーテル、アセトンに混和しやすい。
オクタノール/水分分配係数	： log Pow = 0.41
発火点	： 315
分解温度	： データなし
臭いのしきい（閾）値	： 0.078ppm
蒸発速度（酢酸ブチル=1）	： データなし
粘度	： データなし
動粘度	： 0.590 mm <sup>2</sup> /s、0.345 mN・s/m <sup>2</sup> （50℃）
粒子特性	： データなし
GHS分類	
引火性液体	： 本品の引火点は60（密閉式）、かつ沸点は162℃である。 本品は、23℃引火点60℃であることから、区分3とした。 引火性液体および蒸気（区分3）
自然発火性液体	： 常温の空気と接触しても自然発火しない（発火点315℃（ICSC,2002）） 区分に該当しないとした。
金属腐食性化学品	： データはないが、国連危険物輸送報告がクラス6.1 副次危険3 （国連番号1199）であることから、区分に該当しないとした。

## 10. 安定性及び反応性

安定性（反応性・化学的安定性）	： 通常の取扱条件において安定である。
危険有害反応可能性	： 空気や光にばく露すると、徐々に着色（赤色～茶色）する。 酸又は塩基の影響下で重合し、火災や爆発の危険をもたらす。 酸化剤と激しく反応する。 多くのプラスチックを侵す。 60℃以上では、蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。 本品の蒸気は空気より重い。
避けるべき条件	： 高温、日光、光、裸火、高温、スパーク、静電気
混触危険物質	： 酸化剤、酸、塩基
危険有害な分解生成物	： 一酸化炭素、二酸化炭素

## 11. 有害性情報

急性毒性	： 経口 ラット LD50 = 86.1mg/kg 飲み込むと有毒（経口）（区分3） 経皮 ウサギ LD50 = 500～1000mg/kg 皮膚に接触すると有毒（経皮）（区分3） 吸入（蒸気）ラット LC50（1時間） = 0.8005mg/L（換算値204ppm） 吸入すると生命に危険（蒸気）（区分2）
------	---

皮膚刺激性/刺激性	: 吸入（ミスト）分類できない。 CICAD 21 (2000)およびEU-RAR (2004)にウサギの皮膚への12時間適用で刺激性は認められなかったとの記述があるが、EU-RAR (2004)のウサギの皮膚への24時間適用で刺激性が認められたとの記述、ならびにIARC 63 (1995)、産衛学会勧告(1993)、PATTY (4th, 1994)のヒトへの影響として皮膚を刺激するとの記述から、区分2とした。
眼に対する重篤な損傷/刺激性	: 皮膚刺激（区分2） EU-RAR (2004)およびCICADS 21(2000)のウサギの眼に角膜混濁などの刺激性が認められたが、眼の変化は9日後に回復したとの記述から、区分2Aとした。
呼吸器感受性又は皮膚感受性	: 強い眼刺激（区分2A） 呼吸器感受性：分類できない。 皮膚感受性：区分に該当しない。
生殖細胞変異原性	: EU-RAR (2004)のモルモットを用いたBuehler test およびMaximization testにおいて感受性は認められなかったとの記述、DFGOT (vol.18, 2002)のヒトを対象としたMaximization testにおいて感受性は認められなかったとの記述、ならびにEU-RAR (2004)において皮膚感受性はないと結論づけられていることから、区分に該当しないとした。
発がん性	: 区分に該当しない。 体細胞を用いる in vivo変異原性試験であるマウス骨髄細胞を用いた染色体異常試験において陰性の結果（DFGOT vol.9, 1998、EU-RAR, 2004、IARC 63, 1995、NTP TR382, 1990）であった。
生殖毒性	: IARCでグループ3（IARC 63, 1995）に分類されているが、ACGIHではA3（ACGIH 7th, 2001）、EUでは2003年にカテゴリー3（EU-RAR, 2004）に分類されていることから、最近の評価文書であるEUに従い、区分2とした。 発がんのおそれの疑い（区分2） 区分に該当しない。
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	: EU-RAR (2004)のラットを用いた妊娠中経口投与試験において親動物に一般毒性が認められる用量でも明確な生殖毒性が認められなかったとの記述、ラットおよびマウスでの2年間の経口投与毒性および発がん性試験、ハムスターでの13週間吸入暴露試験などのいずれの試験においても雌雄の生殖器官に影響が認められなかったとの記述から、区分に該当しないとした。
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	: CICAD 21 (2000)、ACGIH (7th, 2001)、DFGOT (vol.9, 1998)、EU-RAR (2004)、PATTY (4th, 1994)、産衛学会勧告(1993)のヒト暴露例で気道刺激症状が認められたとの記述、ならびにCICAD 21 (2000)およびIARC 63 (1995)のラットを用いた吸入暴露試験で肺水腫が区分1のガイダンス値範囲の暴露で認められたとの記述、DFGOT (vol.9, 1998)およびEU-RAR (2004)のラットを用いた経口投与試験において肝臓への影響が区分1のガイダンス値範囲の投与量で認められたとの記述から、区分1（呼吸器、肝臓）とした。
誤えん有害性	: 呼吸器、肝臓の障害（区分1） CICAD 21 (2000)、DFGOT (vol.9, 1998)、IARC 63 (1995)のラットを用いた吸入暴露試験において肺への影響が区分1のガイダンス値範囲で認められたとの記述から、区分1（呼吸器）とした。 また、CICAD 21 (2000)、DFGOT (vol.9, 1998)、EU-RAR (2004)、IARC 63 (1995)、IRIS (2005)、NTP TR382 (1990)のラットを用いた経口投与試験において肝臓への影響が区分2のガイダンス値範囲の用量で認められたとの記述から、区分2（肝臓）とした。 長期又は反復ばく露による呼吸器の障害（区分1） 長期又は反復ばく露による肝臓の障害のおそれ（区分2）

## 12. 環境影響情報

## 生態毒性

- 水生環境有害性 短期(急性)：魚類（カダヤシ）る96時間LC50 = 24 mg/L  
水生生物に有害（区分3）
- 水生環境有害性 長期(慢性)：慢性毒性データを用いた場合、急速分解性があり（BODによる分解度：93.5%（既存点検，1976））、魚類（ゼブラフィッシュ）の12日間NOEC = 0.33 mg/L（EU-RAR, 2008、CICADS 21, 2000）であることから、区分3となる。

	長期的影響により水生生物に有害（区分3）
残留性・分解性	： 良分解性。BOD分解度 = 93.5%
生物蓄積性	： 低濃縮性。Log Pow = 0.41
土壤中の移動性	： データなし
オゾン層への有害性	： 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

## 13. 廃棄上の注意

残余廃棄物	： 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。 都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。 廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。 本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。 （参考）(1)燃焼法 可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉（おが屑）等に吸収させて、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室で焼却する。 (2)活性汚泥法
汚染容器及び包装	： 生分解性があるので、活性汚泥処理が可能である。 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。 空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

## 14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号： 132P

## 国際規制

海上規制情報（IMO/IMDGコードの規定に従う）  
 UN No. : 1199  
 Proper Shipping Name : FURALDEHYDES  
 Class : 6.1（毒物）  
 Sub Risk : 3（引火性液体）  
 Packing Group : II  
 Marine Pollutant : No（非該当）  
 TRANSPORT IN BULK ACCORDING TO ANNEX II OF MARPOL 73/78 AND THE IBC CODE  
 POLLUTANT CATEGORY : Y（フルフラール）  
 Limited Quantity : 100mL

## 航空規制情報（ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う）

UN No. : 1199  
 Proper Shipping Name : Furaldehydes  
 Class : 6.1  
 Sub Risk : 3  
 Packing Group : II

## 国内規制

陸上規制情報（消防法、道路法）の規定に従う。  
 海上規制情報（船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う）

品名 : フルアルデヒド類  
 クラス : 6.1  
 副次危険 : 3  
 容器等級 : II  
 海洋汚染物質 : 非該当  
 MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : Y（フルフラール）  
 少量危険物許容量 : 100mL

航空規制情報（航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う）

国連番号 : 1199  
 品名 : フルアルデヒド  
 クラス : 6.1  
 副次危険 : 3  
 等級 : II  
 少量輸送許容物件許容量 : 1L

- 特別の安全対策 : 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を  
 収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように  
 積載する。  
 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさ  
 ないように運搬する。  
 危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある  
 場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの  
 消防機関その他の関係機関に通報する。  
 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのない  
 ように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。  
 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
 他の危険物や燃えやすい危険物に上積みしない。  
 他の危険物のそばに積載しない。  
 移送時にイエローカードを運搬人に保持させる。

## 15. 適用法令

- 労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物  
 (政令番号 第490号「フルフラール」、対象重量%は 0.1)  
 名称等を通知すべき危険物及び有害物  
 (政令番号 第490号「フルフラール」、対象重量%は 0.1)  
 (別表第9)  
 危険物・引火性の物(施行令別表第1第4号)
- 化学物質排出把握管理促進法  
 (PRTR法): 非該当。  
 ただし、R5年4月1日からPRTR法の対象物質に該当。  
 ・分類 「第1種指定化学物質」  
 ・政令番号 「1-418」  
 管理番号: 721  
 ・政令名称 「フルフラール」
- 消防法 : 危険物第4類引火性液体、第二石油類非水溶性液体、危険等級、  
 指定数量1000L (法第2条第7項危険物別表第1)
- 毒物及び劇物取締法 : 非該当
- 船舶安全法 : 毒物類・毒物(危規則第2, 3条危険物告示別表第1)
- 航空法 : 毒物類・毒物(施行規則第194条危険物告示別表第1)
- 海洋汚染防止法 : 有害液体物質 Y類物質「フルフラール」(施行令別表第1)
- 水質汚濁防止法 : 生活環境項目(施行令第三条第一項)  
 「生物化学的酸素要求量及び化学的酸素要求量」  
 [排水基準] 160mg/L 以下(日間平均 120mg/L 以下)
- 輸出貿易管理令 : キャッチオール規制(別表第1の16項)  
 HSコード: 2932.12  
 第29類 有機化学品  
 ・輸出統計番号(2022年版): 2932.12-000  
 「複素環式化合物(ヘテロ原子として酸素のみを有するものに  
 限る。)  
 - 非縮合フラン環(水素添加してあるかないかを問わない。)  
 を有する化合物: 2-フルアルデヒド(フルフラール)」  
 ・輸入統計番号(2022年4月1日版): 2932.12-000  
 「複素環式化合物(ヘテロ原子として酸素のみを有するものに  
 限る。)  
 - 非縮合フラン環(水素添加してあるかないかを問わない。)  
 を有する化合物: 2-フルアルデヒド(フルフラール)」

## 16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

- 参考文献 :
- |   |                            |
|---|----------------------------|
| 化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ                                    | 化学工業日報社                    |
| 労働安全衛生法MSDS対象物質全データ   | 化学工業日報社(2007)              |
| 化学物質の危険・有害便覧  | 中央労働災害防止協会編                |
| 化学大辞典   | 共同出版                       |
| 安衛法化学物質   | 化学工業日報社                    |
| 産業中毒便覧(増補版)   | 医歯薬出版                      |
| 化学物質安全性データブック   | オーム社                       |
| 公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)   | 三共出版                       |
| 化学物質の危険・有害性便覧   | 労働省安全衛生部監修                 |
| Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM |                            |
| GHS分類結果データベース   | nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP |
| GHSモデルMSDS情報  | 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP   |



このデータは作成の時点においての知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。